

# 運動部活動外部指導者研修会

開催日：令和3年6月19日（土） 場所：ひなた武道館大会議室（対面・オンライン方式）  
講師：一般財団法人弘潤会野崎東病院（当時）理学療法士 菅原 康史氏

## 講演題

### 「心技体からひも解く育成年代に必要なトレーニング～足趾編～」

～理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーの立場から運動部活動外部指導者への講演～

## 講師

### 一般財団法人弘潤会野崎東病院 理学療法士 菅原 康史（すがわら こうじ）氏

令和3年6月19日（土）、県内の中学校・高等学校の運動部活動に携わる外部指導者を対象に、宮崎県中学校体育連盟と協力し、『運動部活動外部指導者研修会』を、一般財団法人弘潤会野崎東病院（当時）理学療法士 菅原康史（すがわら こうじ）氏を講師として、ひなた武道館大会議室にて、対面式・オンライン式両方同時に行うハイブリッド式で開催しました。

開講式で、宮崎県教育庁スポーツ指導センター 岩切 正義 所長から、『部活動は、学校教育の一環として、子どもたちの人格形成に大きな影響を与え、技能面の向上だけでなく、責任感や連帯感の涵養など、生徒の内面や生活面の指導においても大きく寄与するものである。一方で、運動部活動は、最近の「教職員の働き方改革」や「部活動の地域移行」など、全国的に大きな話題となっており、今後、地域と学校が、更に連携を深めながら部活動を推進していくことが、より一層大切になってくる。この研修を実りあるものとしてください。』と、挨拶がありました。

研修会には、対面やオンラインで、中学校、高等学校の外部指導者119名の参加がありました。

参加者からは、「はじめての参加でしたが、特に講義は、どの競技にも通じる内容であり、大変勉強になりました。」と、大変好評でありました。

#### 【内容】

- 1 心技体からひも解き考える。～心技体における練習計画の割合は？～
- 2 プロフィールシートの作成～指導者としての信念等の自己分析、指導競技、カテゴリー等の分析～
- 3 本日の学習目標  
～指導実践計画、個別性への指導バランス、選手と指導者の目線のギャップを解決する糸口を考える～
- 4 育成を考える大切な要素
  - ① 年齢における有利に発達しやすい要素
  - ② 競技におけるバイオメカニクス
  - ③ 姿勢をよくすること＝間隔機能発達
  - ④ 食事や睡眠の日常生活指導や教育を考える。
  - ⑤ 指導者も選手も目標設定と行動計画を立てる。

## 編集後記

- ①スポーツ庁は、運動部活動の地域への移行を着実に実施するとともに、子どもたちがそれぞれ適した環境でスポーツに親しめる社会を構築することを目的として、有識者や自治体、スポーツ関係者等を委員とする検討会議を設置しました（R3.10～）。今後、運動部活動の地域における受け皿整備の方策等について議論し、提言が取りまとめられる予定です。
- ②県は、国の動向を注視しながら、将来の地域部活動の姿についてどうあるべきか、検討に入っています、現在の外部指導者は、今後の地域部活動の指導者として、その役割を担うことになるかも知れません。

## 担当の目

合理的かつ効率的・効果的な活動の推進について、運動部活動の実施にあたり、現在は、事故の防止や体罰・ハラスメントの根絶を徹底するとともに、スポーツ医・科学を踏まえた科学的トレーニングを導入するなど、短時間で効果的な活動が推進されています。